

会 議 録

会議名	神川町立小学校適正規模等検討委員会（第5回）		
開催日時	令和2年12月22日（火）	開会	午後1時30分
		閉会	午後3時20分
開催場所	役場3階 第1、2会議室		
会議次第	1 開 会 2 あいさつ ・教育長 ・会長 3 議 事 （1）望ましい学校規模について （2）望ましい学校配置について （3）その他 4 閉 会		
公開・非公開の別	公 開	傍聴者数	1
非公開の理由			
委員出欠状況	氏 名		出○・欠×
	会長	松本 浩	○
	副会長	木村 豊	○
	委員	田中 洋平	○
	委員	野枝 裕治	○
	委員	宮崎 肇	×
	委員	小泉 裕一	○
	委員	江森 貴文	×
	委員	山崎 育樹	○
	委員	島田 悦子	○
	委員	前田 芳江	○
	委員	中野 辰夫	○
	委員	原 剛	○
	委員	貫井 浩	○
	委員	堀川 光宣	○
委員	四方田 繁男	○	

事務局	教育長	福嶋 慶治
	課長	矢島 柁仁
	補佐	堀口 二三夫
	主任	田村 充
次第	顛 末	
1 開会		
2 あいさつ	教育長	
	会 長	
3 議 事		
	(1) 望ましい学校規模について	
	会 長	それでは資料について、事務局より説明をお願いします。
	事務局	資料1「学年別児童数・学級数見込み」、資料2「将来の男女5歳階級別推計人口」について説明する。
	会 長	只今の説明について、皆さんから質問があればお願いします。
	委員	人数が減ってくるのはわかるが、この人数を増やす改革をすれば良いのではないですか。
	会 長	この表で、学年別の児童数・学級数の見込がわかるかと思います。1年生は35人が上限で、36人からは2クラスになります。2年生から6年生は40人が上限で41人を超えたら2クラスになります。ただし、文部科学省は今後5年かけて全ての学年で35人学級を目指すとしています。このようなクラス編成になると、今度は先生の確保をするのが大変になります。前回までに4つの小学校を視察していただきましたが、ゆくゆくは4つを1つにしていく方向かと思いますが、いかがですか。
	委員	人口増もあるかもしれないが、この表の数字を見ればゆくゆくは1つになるのかなと思います。地形的に見れば2校が良いのですが。
	委員	最終的には1校だが、まず2校にしてからということも考えられます。住民に時間を掛けて説明が必要です。予算的にもそうするのがベストだと思います。こうした内容を町民に早く知らせたほうが良いと思います。
	会 長	貴重な意見ありがとうございました。他に意見があればお願いします。
	委員	行政が人数を増やす努力をしてほしい。テレビを観ていたら、他の県で四国の方から移住してきたり、他の地域は努力をしていると思います。今はコロナで会社勤務が減り、家でのリモート会議などもあります。他県から神泉のこの環境の良いところにくる人もいるのではないのでしょうか。
	委員	私は、この資料の数字を見てショックでした。まず2校にしてから後に1校にするのが良いと思っていましたが、10年、20年、30年先の数字を見ると1校も仕方ないのかなという感じです。
	委員	私はPTAの代表で保護者の立場、親の立場からはすごく理解をしています。この適正規模等検討委員会だけで学校を統合したり1つにする検討をしていますが、もし統合した後に子供の人数が増えてきたら、1つにした学校を2つに出来るのですか。この先のビジョンみたいなものを作ったほうがよいのではないですか。
	会 長	ありがとうございました。他にご意見はありますか。
	委員	聞けば聞くほどほど悩んで迷ってしまいます。先ほどの委員さんからの意見にもありましたが、ビジョンを作り地域を交えた話し合いがあった方がよいのではないのでしょうか。国の方針に従うのもどうなのか。地元関係者に話を聞いてもらいたいです。

委員	数字を見れば、10年20年後に1校となるのは仕方ないとは思いますが、私は今はまだ現状の4校のままで良いと思います。10年後、20年後のその時に考えればよいと思います。
会長	この資料の数字は令和8年度までの子どもの実数です。この数字を基に皆さんとこの先のことを決めていかなければなりません。
委員	今はこの先のことを考えていかなければなりません。この先、会社が来て、人口が増え、家が出来て人がどんどん増えていくとも思えません。税収が減る中で、お金もかかるし我慢するところは我慢して、早く統合して子供達の将来を考えた方がよいのではないのでしょうか。統合して経費が節約できれば、子供たちのために使うことができ、もっと良い教育ができるのではないですか。
委員	人口の表は悪までもシミュレーションであり、この人口を増やす対策をしなくてはならない。国の言う35人学級をもっと少人数に進めていく方向もあります。先生の働き方改革についても、少人数の方が負担が減るのではないですか。
会長	ありがとうございました。今、地域の代表の方、PTA代表の方、議員さんからいろいろな意見が出ました。学校からみた意見を先生に聞きたいのですがいかがでしょうか。
委員	子供たちのことを考えると、1クラスではなく、2クラスあれば、毎年クラス替えが出来て、今とは違う環境を子供達に感じさせてあげられるのではないかと思います。今は、学校を任されている立場であり、現状で頑張っている状況です。
委員	教育者として考えれば、小規模校ではいろいろな考え方に触れたり出会ったりする機会は少ないと思います。大学や海外に行った時などは、もっと多様な経験をした方が良いのかなと思います。現状としては、複式学級はもちろん大変ですが、先生と子供達も含めみんなで協力して活動しています。小規模校には良いところもありますが、この先大人になっていくにあたり、正直不安な気持ちもあります。
委員	少人数の学校なので、この特徴をどう活かしていくかということを考えてきました。家族のように思いやりのある活動はできていますが、固定された人間関係では環境を変えることは難しいと思います。
会長	ご意見をありがとうございました。教育の原点は、子供達一人ひとりに合わせた特別支援教室だと思います。子供たちの個性を見ながら育てることです。障害のある子供については、熊谷、本庄、坂戸、大宮など学区外の専門の学校に通っている子もいます。子供達を伸ばすにはそれなりの良い環境が必要です。 この資料が今は検討委員会の答申に向けての根拠となります。何時とはまだ言えませんが、ゆくゆくは小学校を1つにしていく方向で考えていかななくてはならないと思いますがいかがでしょうか。
委員	この資料の数字の中で、転入した子供、転出した子供が何人かはいるはずで。分かれば次回にその人数を教えてください。
会長	事務局に、数字を調べていただいて、次回に報告させていただきます。
委員	小学校を1校にするという意見が出始めていますが、答申を出して、それで決定になるのですか。住民に説明もしていませんが、悪までもまだ答申の段階なので決定ではないですね。

委員	まず統合するかしないかを決めて、その後に2校にするか1校にするかを定めるべきだと思います。
委員	この委員会で答申を出したからといって、そのとおりになるというものではないはずです。
委員	住民に説明するときに、この検討委員会で決まったことだからという説明はしないでほしい。小学校を1つに統合するという噂が、地域の人々に出回ると困ります。
会長	この委員会の答申は町の教育委員会に出すものです。それから教育委員会から町へ送られ、町の執行部や議会により最終的に決定しますので、この委員会で統合するかどうかを決定するものではありません。
委員	この資料の数字をみれば、渡瀬小、神泉小の子供の数が減るのは一目でわかるが、学校を1つにするのは、別に小さいところを削らなくてもよいのではないですか。大きい学校を統合して、小さい学校を残すということも考えられると思います。
会長	小規模の学校が、地域の皆さんの協力で今まで盛り上げてきたのもわかりますが、この先、20年、30年先の事を考えて1校にしてはどうかという考えはありますか。皆さんの今の考えをお聞きしたいと思います。
委員	学校を1つにしなくても良いのではないですか。現在の4つの学校を残すのもあり、2つにするのもあり、いろいろなパターンの答申を出すのも良いのではないですか。
会長	今回、前回と事務局よりいろいろな資料が提出され、検討材料が沢山ありました。この資料の数字だけをみれば、早く学校を1つにするという方向で会議を進めていかないとならないかと思えます。ですが、4つの小学校を1つにするとしてもそう簡単なことではありません。場所、適地を見つけどこに1つにするか、また住民の意見等も聞いていかないとなりません。今後の答申に向けての目標を立てないと前に進まないと思えます。
(2) 望ましい学校配置について	
会長	それでは(2)望ましい学校配置について、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料3「町内小学校建築年度・更新費用等」、資料4「町内小学校更新・運営経費等概算費用比較」、資料5「小学校建設費用見込み、スクールバス経費」について説明する。
会長	ありがとうございました。4校残した場合と2校とした場合などのシュミレーションを出していただきました。これについて委員さんから質問があればお願いします。
会長	小学校も既に建設後40年以上が経過しており、残りの耐用年数も十数年です。1校として新しい校舎を建設する場合は、適した場所はあるのですか。
事務局	学校を建て替えるには、大きな面積が必要となり、新しい場所を選択しての建設となると、農地を転用してはなりません。ですが、農地転用が可能な場所に必要な面積を確保するのは難しいと思います。
委員	校舎の耐用年数はあくまでも税の償却資産としての価値であり、期限が来れば使用できないという意味ではないですよね。
会長	他に費用、運営経費についての質問があればお願いします。
委員	学校別の子ども1人当りの経費を教えてください。

	会長	事務局で調べて、委員の皆さんに教えてあげてください。
	委員	お金のことは役場や議員が考えれば良いことで、私たちは子供達のことを考えれば良いのではないですか。私は大人数の学校を出たが、埋もれて意見が言えなかった。少人数の方が自分の意見が言えて良いのではないですか。
	委員	1校、2校、4校にしてもそれぞれ問題はあります。答申を出せば、30年先、40年先を見ていたのかということになります。意見はそれぞれですが、一致できる部分を探せないかと思います。
	教育長	教育長としての立場でお話しさせていただきますが、今までこの検討委員会で皆さんと話し合ってきましたが、その内容がこれから答申となります。この検討委員会は、そういった場所であり、答申を出すところであり、子供達が大人になった先のことも考えて、文部科学省などの方針を踏まえて、深い学び、対話的、主体的な学びができる教育環境づくり、子供を中心に考えた環境づくりを求めて答申を出していただきたいと思います。
	会長	ありがとうございました。他に意見がありますか。
	委員	資料の数字でみると統合しなくてはいけないのかなとは思いますが、地域のみなさんに納得してもらえそうな方向性、答申を出さなければならぬと思います。お金もかかることなので簡単には決めきれないです。
	委員	お金とか環境とかではなく、子供達にとって一番よい方向を考えて検討しなくてはいけないのではないかと思います。
	事務局	先ほど委員さんから質問のあった、学校別の子ども1人当りの経費ですが、過去5年間の運営経費の平均の金額を令和3年度の生徒数で割ると、丹荘小が11万2千円、青柳小が25万6千円、渡瀬小が67万3千円、神泉小が164万9千円となります。
	会長	子供達がよい環境の中で過ごせるのも、学校の環境や地域の手助けがあって成り立っています。児童数が減り、国の定める児童・学級数や、校舎の老朽化による改修費などがかさみます。出来るなら新しい学校で過ごせたら一番理想ですが、今は現在の校舎を使い、工夫していかないといけないのが現実だと思います。渡瀬小、神泉小については、複式学級ですので、校長先生、担当の先生が大変ご苦労なさっていると思います。 現段階ではまだ方向性が定まらず、皆さんの意見がまとまっていません。次回までに、こうしたら自分と反対の意見をお持ちの方の意見が汲めるのではないかと、反対の人の意見も救えるのではないかとという考え方をもって、次回の会議に出ていただき意見をまとめたいと思います。よろしくお願いします。
		(3) その他
	事務局	次回の委員会の期日が、1月26日から2月2日に変更となること及び本会議の議事録署名人について説明する。
	会長	皆さん、ご了解いただいたということでよろしいでしょうか。それでは以上で議事を終了いたします。
3 閉 会	事務局	ありがとうございました。閉会を副会長にお願いします。
	副会長	以上をもちまして、会議を終了いたします。
	閉会	午後3時20分 終了